

平成25年 観光動態調査 (1月~12月)

1. 概要

平成 25 年（1 月～12 月）の柳川市への観光客の入込客数は、平成 24 年約 117 万 4 千人から約 7 万人増加し、約 124 万 5 千人だった。この数字は、合併後の平成 18 年約 125 万 6 千人に次ぐ入込となっている。月別にみると 3 月、4 月がピークであり、要因としては、気候もよくなり、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」や「中山大藤まつり」といった柳川市を代表するイベントによる入込が多いと考えられる。

平成 25 年の外国人観光客を見ると全国で初めて 1,000 万人を突破し、九州でも過去最高の 125 万 6 千人が訪れている。本市でも約 6 万 6 千人が訪れ、平成 24 年と比べて 78% の増となっている。外国人観光客の伸びが顕著になっている。

観光消費額は、入込客数の増加に伴い、平成 24 年の約 45 億 3 千万円から約 7% 増加し、約 48 億 6 千万円となっているが、1 人当たりの消費額は、平成 24 年の約 3,900 円とほぼ同じ額だった。

宿泊客数は、平成 24 年の約 4 万 2 千人とほぼ同じ宿泊者数だったが、宿泊者の割合を見ると平成 24 年の 3.6% から 3.4% に減少している。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約 54%、西鉄電車利用者が約 28%、大型バス利用者が約 18% の割合となっている。割合だけを見ると乗用車利用者は平成 24 年と同じ数字になっているが、乗用車利用の観光客数は約 3 万 5 千人増加している。また、大型バスの利用者も平成 24 年と比べて約 3 万 5 千人増加している。個人観光客が多く占めている状況は変わらないが、団体客も増加傾向にあることがうかがえる。

川下りの利用客は、平成 24 年の約 29 万 2 千人から約 17% 増加し、約 34 万 3 千人となった。平成 23 年から 30 万人を下回っていたが、3 年ぶりに 30 万人を突破した。要因の一つとしては、外国人観光客の増加及び団体客の増加が考えられる。

なお、九州運輸局の宿泊統計によると、九州での宿泊者数は昨年に比べ増加しており特に、外国人観光客は東日本大震災の影響で減少した平成 24 年と比較すると約 29% 伸びている。

また、九州の宿泊施設を利用した観光客の居住地は、約 40% が九州となっており、次いで関東、近畿の順で多く、九州の観光客は、九州内で観光する傾向がある。

2: 観光入込客数

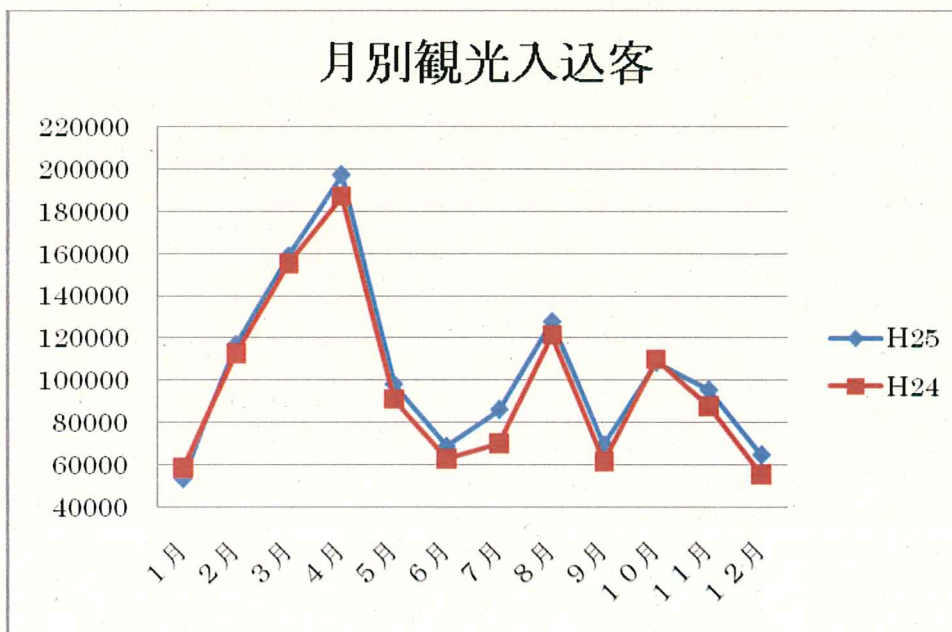
(1) 観光入込客の推移

観光客の入込客数は、124万5千人で、平成24年と比較すると7万人の増加となっている。主な増加の要因は、各イベントの市外からのお客様の割合が高まったことや外国人観光客の増加が考えられる。



(2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、春先の3月、4月がピークであり、これは、2月から開催される「さげもんめぐり」や「中山大藤まつり」のイベントの集客が大きいと考えられる。



3. 観光消費額

(1) 観光消費額の推移

推計消費額は、入込客数の増加に伴い約 48 億 6 千万円で、平成 24 年と比較すると約 3 億 3 千万円の増加であったが、1 人当たりの消費額は約 3,900 円となっており平成 24 年とほぼ同じ額だった。

最も高い消費額は食事代で、約 21 億円。また、川下りが約 4 億 6 千万円となっている。

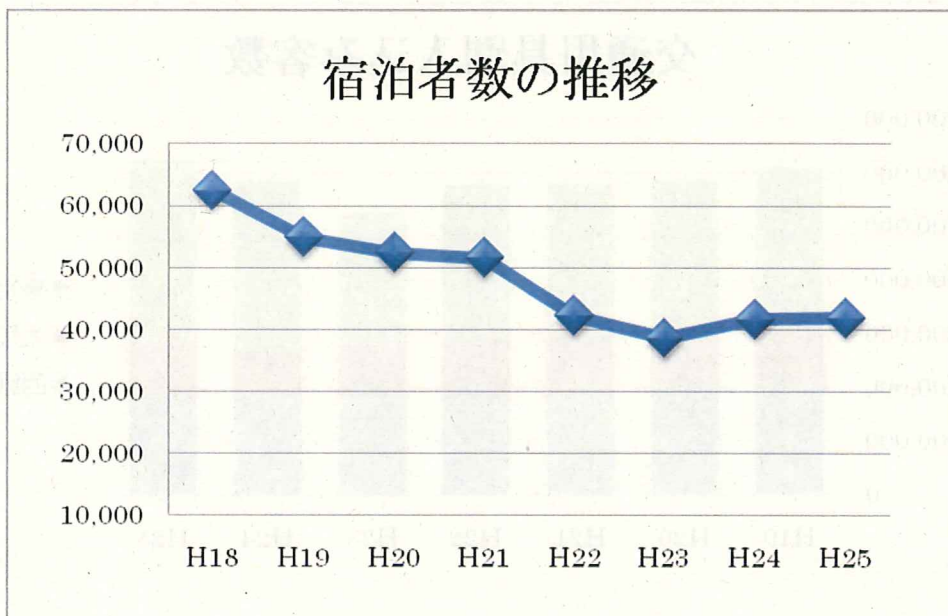


4. 宿泊客数

(1) 宿泊客数の推移

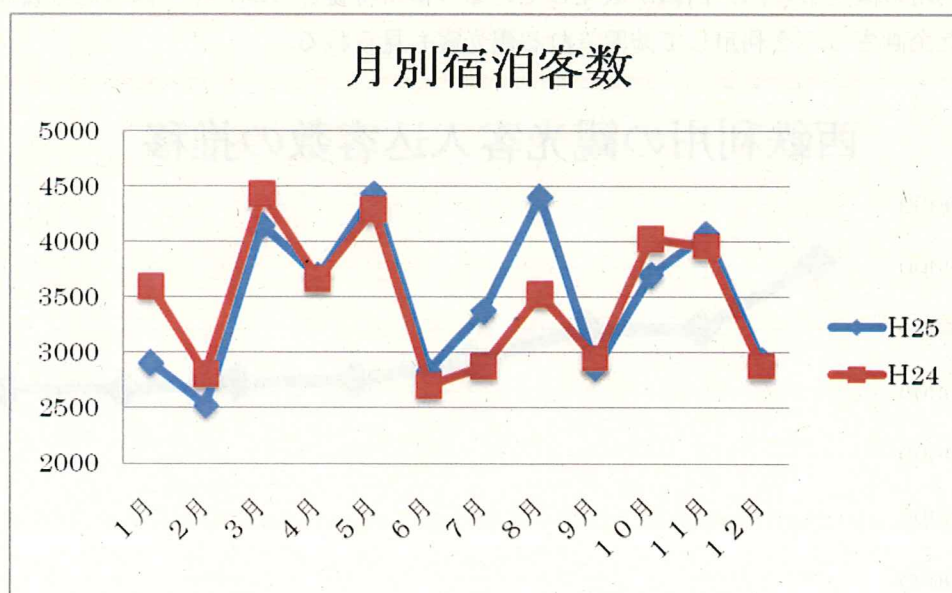
宿泊客は、約4万2千人であり、平成24年とほぼ同じ宿泊者数だった。

また、観光入込客数に占める宿泊者数の割合は、約3.4%であり、日帰り・通過型の観光客が大半を占めている状況がうかがえる。



(2) 宿泊客数と観光入込客（月別）

平成25年の月別宿泊客数では、5月と8月がピークとなっている。特に、8月は高校総体が北部九州で開催されたことで大きく伸びたと考えられる。

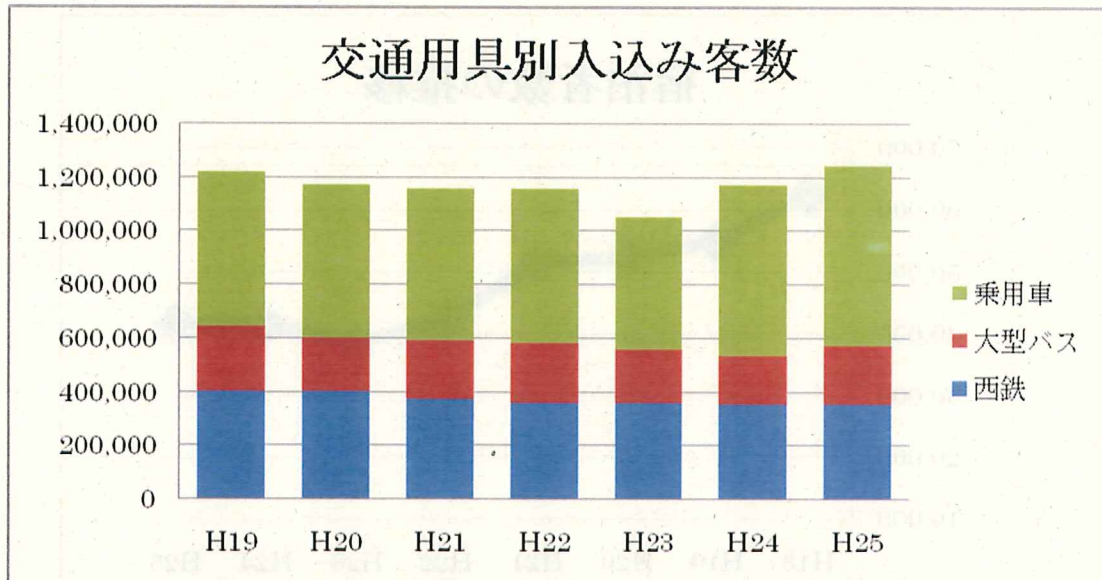


5. 個別の交通機関

(1) 交通用具別入込客数の推移

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の54%を占め、西鉄電車利用者が約28%、大型バス利用者約18%となっている。

このことから、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めていることがわかる。

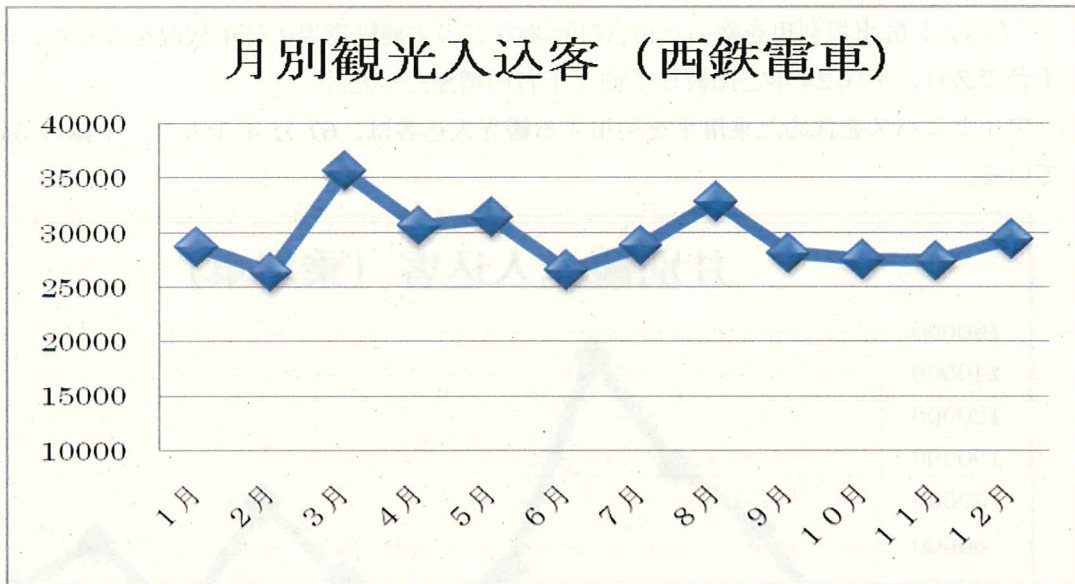


(2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約195万4千人であり、平成24年と比べて約3千人の増加となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、35万3千人と推計され、全体の観光客数の内、約28%と推計される。

西鉄利用の観光客の内、西鉄が販売している「柳川特盛きっぷ」や「湯ったり柳川きっぷ」といった企画きっぷを利用して訪問される観光客も見られる。

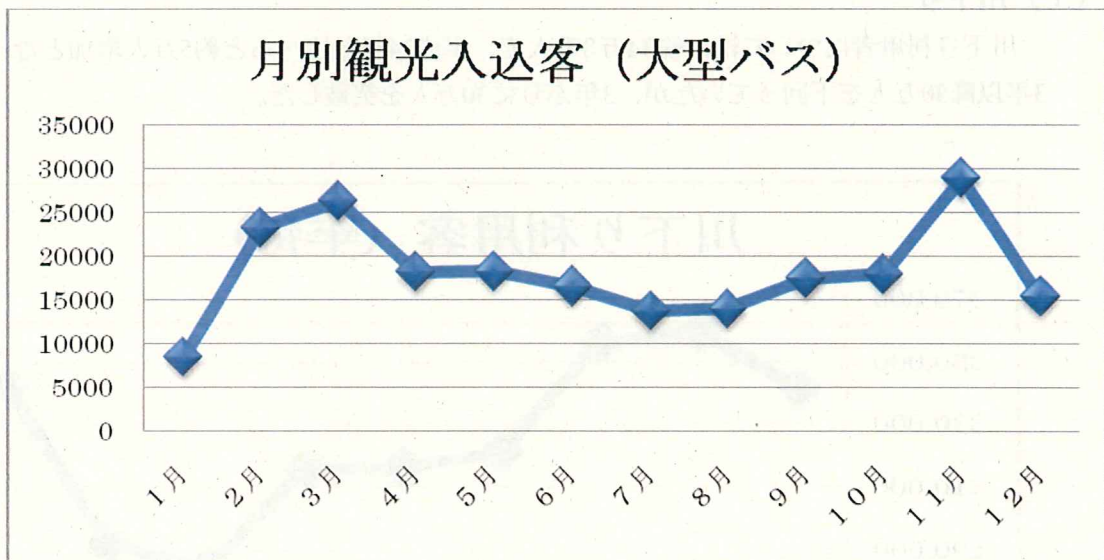




（3）大型バス

主要駐車場の大型バスの台数状況を見ると、延べ約4千4百台の駐車があり、平成24年と比較して約150台増加している。

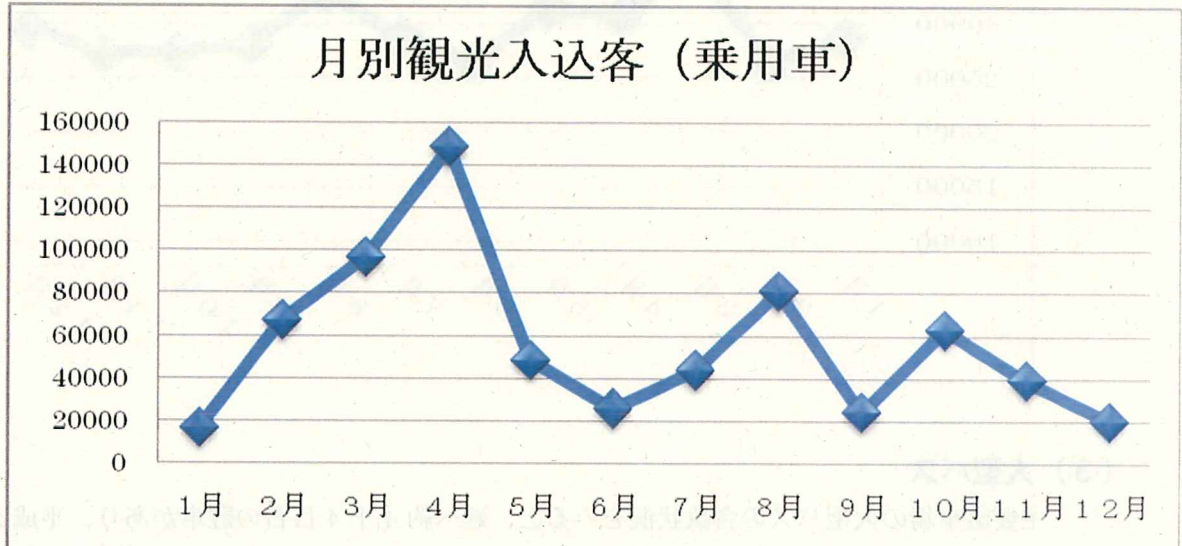
大型バスを利用する入込み客数は、約21万9千人で全体の18%を占めており、平成24年と比較して約3万5千人増加した。



(4) 乗用車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況を見ると、約1万9千台であり、平成24年と比較して約4千台の増加だった。

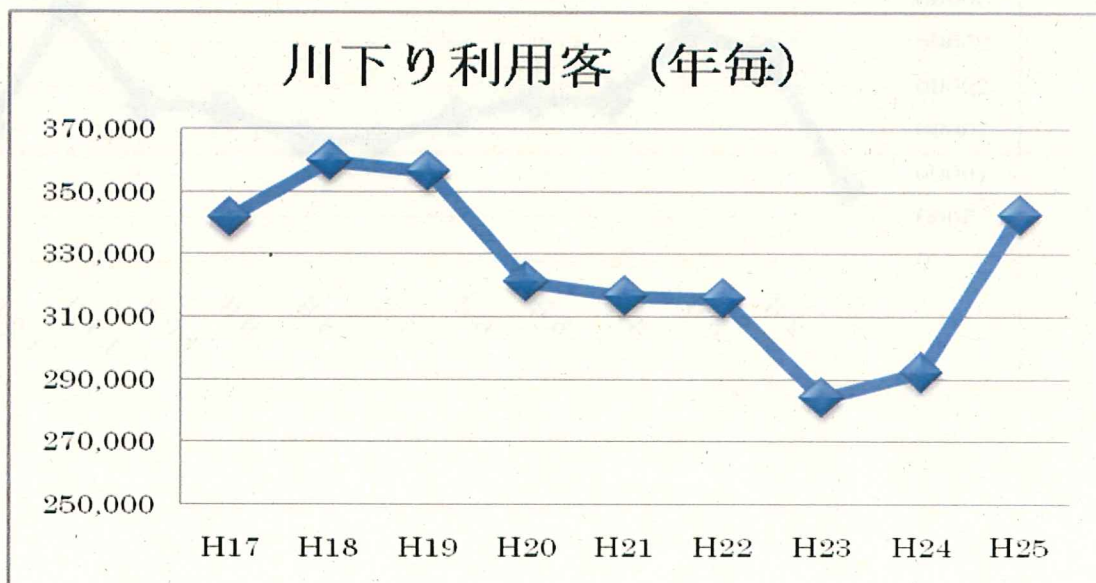
マイクロバスを含めた乗用車を利用する観光入込客は、67万4千人で、全体の54%を占めている。

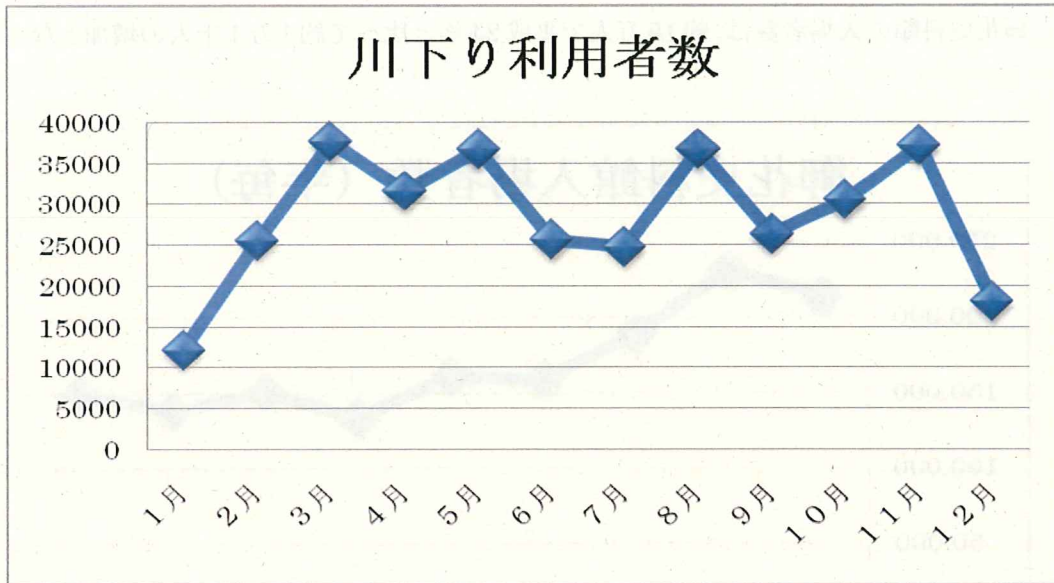


6. 主な観光施設の入込客数

(1) 川下り

川下り利用者については、約34万3千人で、平成24年と比べると約5万人増加となった。平成23年以降30万人を下回っていたが、3年ぶりに30万人を突破した。





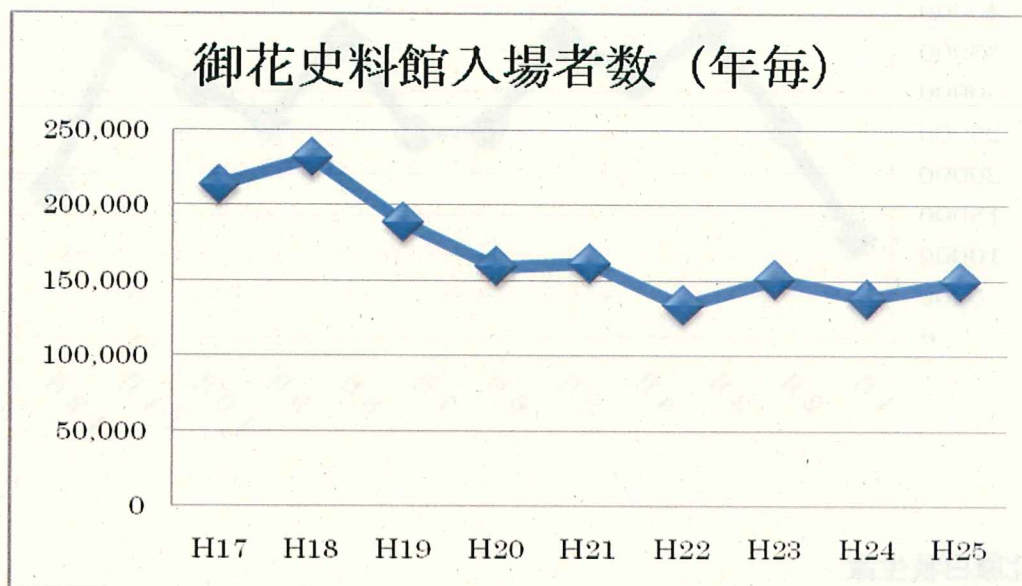
(2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入込客は、約5万4千人であり、平成24年と比べて約3千人減少した。



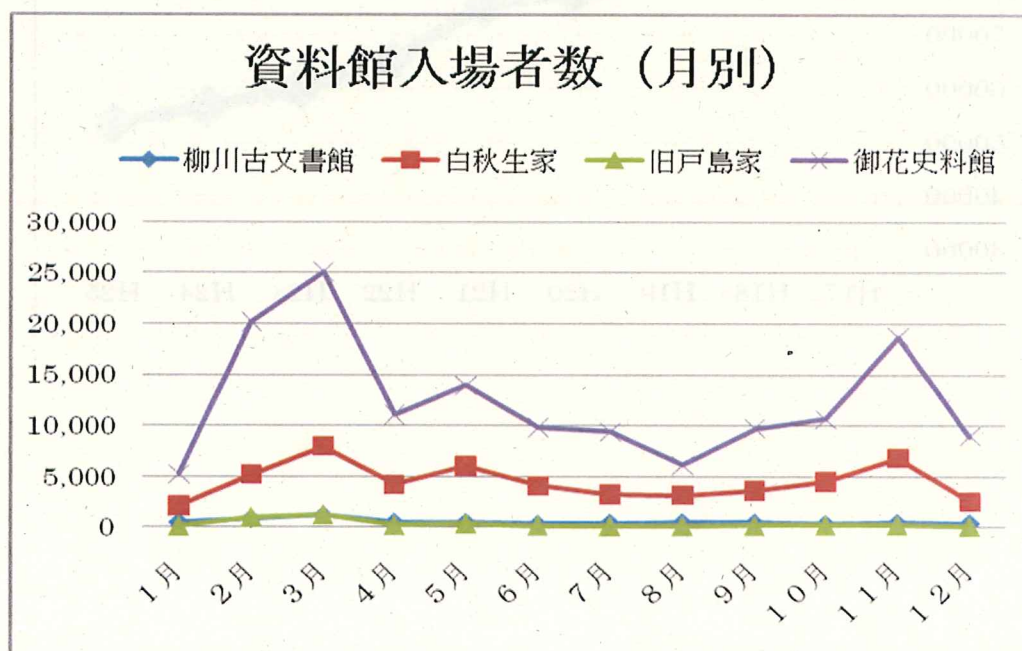
(3) 御花

御花史料館の入場者数は、約15万人で平成24年と比べて約1万1千人の増加となっている。



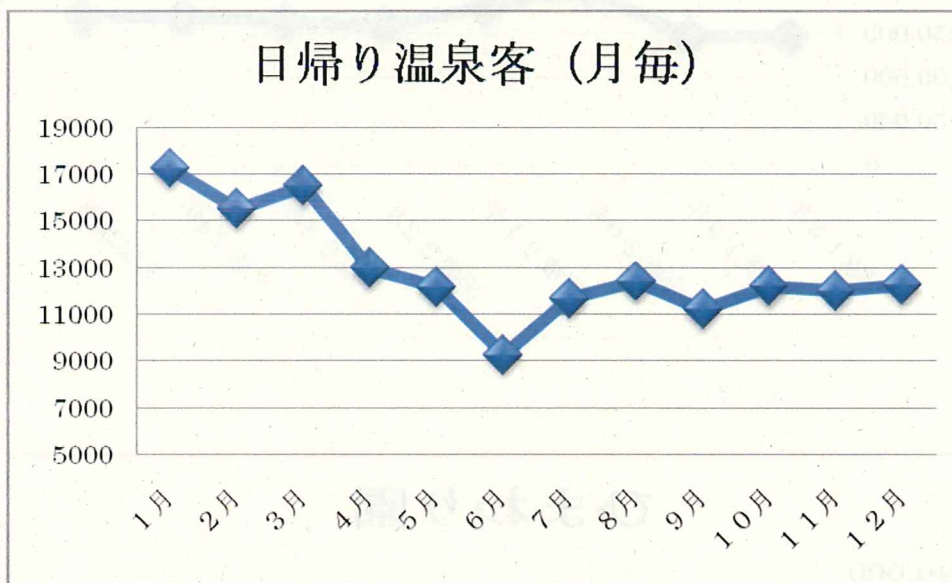
(4) 資料館入場者数 (月別)

資料館別に入場者数をみると、御花の史料館が1番入場者数が多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、柳川古文書館の順となっている。北原白秋生家へ来館された方は、無料で旧戸島家住宅に入場できるが、年間入場者数は北原白秋生家5万4千人に対して旧戸島家住宅が4千人となっている。



(5) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約15万5千人であり、平成24年と比べると約3万5千人の減となっている。



7. 主なイベントの入込客数

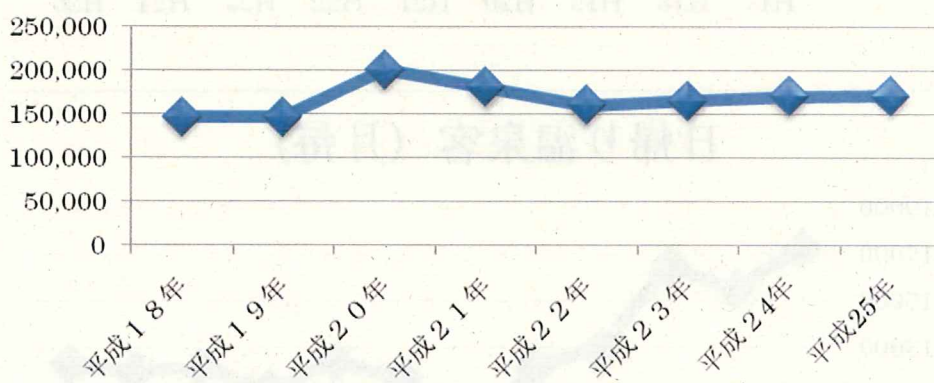
主なイベントの入込客数は主催者発表によると、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」約15万6千人、「中山大藤まつり」約17万1千人となっている。

また、各種イベント「柳川雛祭り・さげもんめぐり」、「中山大藤まつり」、「ひまわり園」、「よかもん祭り」は聞き取り調査結果からも、市外からのお客様の割合が高まっている。駐車場で県外・福岡ナンバーの車も多くみられた。

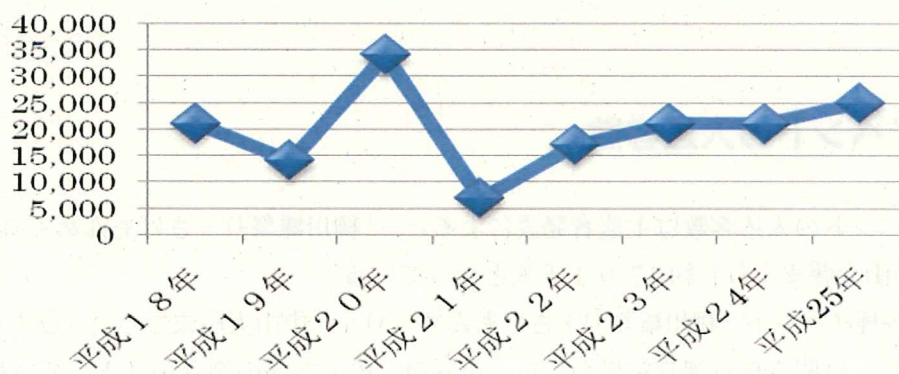
柳川雛祭り・さげもんめぐり



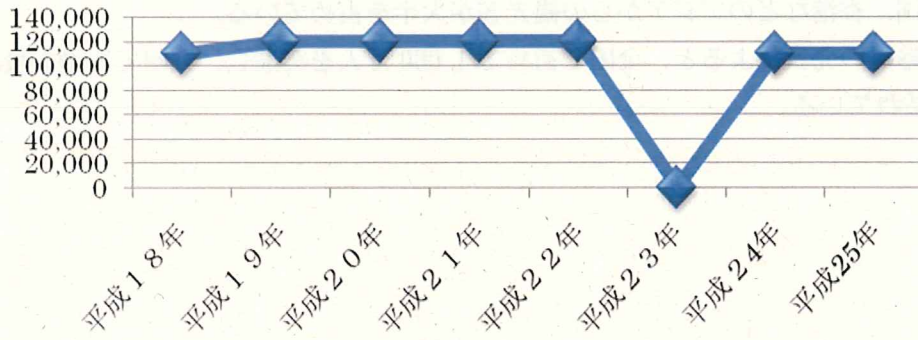
中山大藤まつり



ひまわり園



有明海花火フェスタ



柳川よかもん祭り



8. 外国人観光客

外国人観光客は、約6万6千人で、平成24年と比べて約3万人の増加だった。国別にみると台湾、韓国、香港などのアジアからの観光客が大半を占めている。

九州運輸局の発表によると、全国で初めて1,000万人を突破し、九州でも過去最高の125万6千人が訪れている。